

コープこうべエコレポート 環境報告書 2011



コープこうべの環境への取り組みは
ホームページで詳しくご紹介しています。



▶環境のとりくみ

環境に対する基本理念や行動指針、事業や活動における環境の取り組みの概要を紹介しています。

<http://www.kobe.coop.or.jp/work/ecology/index.html>



▶コープこうべの環境活動

マイバッグ運動をはじめ、コープこうべが組合員とともにすすめている環境活動を中心に紹介しています。

コープこうべ 環境

<http://eco.coop-kobe.net/>

「生活協同組合コープこうべ エコレポート2011」

編集・発行／生活協同組合コープこうべ 環境推進室

TEL:078-856-2068 FAX:078-856-1700

<http://www.kobe.coop.or.jp>

環境を守ること。
それはくらしを守ること。

VOC FREE T&K
水を使用せず、廃液の一切出ない「水無し印刷」と揮発性有機化合物(VOC)を含まない「nonVOCインキ」を採用しています。

2011年9月発行

COOP 生活協同組合コープこうべ

Eco Report

組合長ごあいさつ



生活協同組合コープこうべ
組合長理事

本田 英一

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、未曾有の大津波を伴い、岩手・宮城・福島各県の沿岸部を中心として甚大な被害を及ぼしました。被災されたみなさまには、心からお見舞い申し上げます。コープこうべは、阪神・淡路大震災の経験をもとに、震災直後から支援を行ってまいりました。今後も、被災地の生協の支援を通じて、一日も早い生活再建のため、できる限りの支援を続けてゆく所存です。

さて、このたびの大地震は、福島第一原子力発電所の事故をまねき、日本のエネルギー政策を大きく揺るがす事態を引き起こしています。

この状況を乗り越え、次世代に向け、さらに住みよい環境を実現していくことは、現在の私たち一人ひとりの責務であり、くらしを守る生協の使命でもあると考えています。

今こそ、これまでのくらし方、消費のあり方を見つめなおし、環境への負荷の少ない社会と経済のしくみへと転換をはじめめる時期だと感じます。

コープこうべでは、これまでも資源を大切にすることを、組合員活動と事業の双方ですすめてまいりました。店舗でのマイバッグ運動や容器包装のリサイクル活動は、少しずつですが着実に社会のしくみとして広がっております。また、省エネについては、すべての事業所で取り組みをすすめて、結果として2010年度には前年と比較し96.6%までCO₂の排出を抑制することができました。

さらに、未来の環境のために今できることとして、自然との共生のあり方を考える取り組みも広げました。

例えば「コープの森・社家郷山」の整備と環境学習や、20周年を迎える「コープこうべ環境基金」による自然環境保全活動への支援など、各地域の活動をつないで支え合うネットワークづくりも組合員と一緒に進めています。

これらの概要についてまとめ、このたびコープこうべ環境報告書として発行することになりました。すべての取り組み内容を網羅できるものではありませんが、コープこうべの環境貢献の成果のひとつとしてご覧くださいますようお願い申し上げます。

2011年9月

コープこうべ これまでの歩み

年代	年度	主な取り組み	年代	年度	主な取り組み
80年代以前	1978	・「買い物袋再利用運動」を開始 ・食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更	2000年代	2000	・全事業活動でISO14001取得
	1981	・有リン洗剤の取り扱いを中止 ・せっけんキャンペーンを開始		2001	・第一次環境中期計画(2002~04年度)策定 ・エコファームを本格オープン
90年代	1990	・コープの環境月間スタート ・環境統一マーク商品の供給を開始 ・牛乳パックリサイクルが本格的にスタート		2003	・食品工場の廃棄物処理設備完成
	1991	・買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に ・フードプラン第1号商品開発	2004	・第二次環境中期計画(2005~07年度)策定	
	1992	・公益信託「コープこうべ環境基金」を設立	2005	・ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合 ・フードプラン管理規定の策定 ・食品工場のバイオマス利活用の取り組みが兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定	
	1995	・買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に	2007	・第三次環境中期計画(2008~10年度)策定 ・「マイバッグ運動」のステップアップ~レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店全店で実施 ・容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞受賞	
	1996	・総代会特別決議として「環境憲章」を採択	2008	・兵庫県、西宮市などと企業の森づくり協定締結	
	1998	・コープ武庫之荘ISO14001取得 ・コープ土づくりセンター(エコファーム)完成 ・(有)みずほ協同農園(エコファーム)発足	2010年代	2010	・店舗で卵パック・透明トレイの回収スタート ・コープスフードプラン20周年 ・コープスに兵庫県産産物をアピールする「ひょうご産」商品を導入 ・国内産飼料米を使った「穂の実りたまご」開発 ・コープ神吉が省エネのモデル店舗としてリニューアルオープン ・コープミニ御影北の店内照明すべてを実験的にLED化 ・省エネ運用の徹底によるエネルギー・CO ₂ 削減の取り組みを全事業所で展開
	1999	・食品工場ISO14001取得 ・エコファーム施設の完成			

コープこうべ概要 (2011年3月31日現在)

名称	生活協同組合コープこうべ	供給高	2,332.7億円
設立	1921年4月12日	生産事業高	105.6億円
本部所在地	〒658-8555 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号	総職員数	10,528人
出資金	414.1億円	事業所	住吉事務所 / 1カ所 地区本部 / 6カ所 店舗事業 / 145店舗 宅配事業 / 21事業所 食品工場 / 1カ所 物流センター / 6センター その他 / 45事業所
組合員数	1,421,545人		
組織率	62.3%(活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合)		
活動エリア	兵庫県全域・京都府京丹後市		
主な事業	組合員世帯を対象に、商品の生産・供給事業および教育・学習を行い、生活文化の向上を図る事業など		

CONTENTS

組合長ごあいさつ／コープこうべ概要	1
コープこうべこれまでの歩み／編集方針	2
特集・CO ₂ 削減の取り組み	3
3Rをさらに推進	5
商品を通じた環境の取り組み	6
組合員の活動と学習	7
食品リサイクルの推進	9

<http://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>
関連情報・詳細情報はウェブサイトでもご覧いただけます。

編集方針

コープこうべでは、安心してらせる環境を次世代に残すため、多くの組合員のみなさんと一しょに、マイバッグ運動をはじめさまざまな活動をすすめています。今回のレポートでは、その中から組合員のみなさんにご利用いただいている店舗や宅配での取り組み、商品における環境配慮、森林整備など、身近な取り組みを中心にお伝えしています。活動のねらいや内容について、組合員のみなさんと共有できれば幸いです。

報告対象範囲:生活協同組合コープこうべ
報告期間:2010年4月1日~2011年3月31日
※一部、2011年4月以降の活動も含まれます

確実に、着実に、CO₂削減

地球温暖化対策、省エネルギー法の改正、
そして東日本大震災にともなう原発事故を発端とする2011年夏の電力不足。
コープこうべもさらにエネルギーの使い方を見直して、CO₂の排出削減に取り組んでいきます。

CO₂排出量
96.7%

2009年度比

(コープこうべ、大阪北生協、子会社のCO₂を合算した実績です。
コープこうべと大阪北生協は2011年4月1日に合併し、一つの生協となりました。)

コープこうべグループでCO₂削減

2010年度は、店舗をはじめとする事業所での省エネ運用の強化や省エネ設備の導入の効果により、コープこうべグループのCO₂排出量は、118,274tと前年よりマイナス3,990t、前年比96.7%と、計画どおりの実績となりました。

コープこうべは全国の生協とともに、厚生労働省にCO₂削減の自主行動計画を提出しています。この計画では2002年度を基準年としており、コープこうべグループのCO₂排出量は2002年度対比では、90.2%と約1割の削減となりました。

●CO₂排出量の推移



※コープこうべグループとして子会社の㈱コープベーカーリーのCO₂排出量を新たに加えています。

日常の省エネ運用を強化

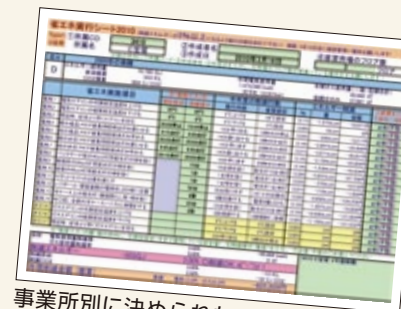
2010年度より、全事業所において日常のエネルギーの使い方の見直しを強化しました。2009年度の省エネ運用実験の結果から、省エネ実施項目リストとそのエネルギー削減効果を示した「省エネ実行シート」や「運用手順書」を作成しました。店舗では、このシートにより前年比3%削減となるよう実施項目を選択し、1年間それに取り組めます。実施項目は、冷暖房の設定温度の管理、空調の運転や売場照明の点灯の時間管理、蛍光灯の削減、LED球の導入、などです。宅配センターなどでも同様のシートと手順書を使用し、省エネを全事業所で実施しました。

コープこうべ全体のCO₂排出量の約6割を占める店舗では、このような取り組みと2009年度に12店舗で導入した空調機などの省エネ効果により、前年度から3,221tのCO₂が削減され、前年比95.5%の実績となりました。

店舗に次いで排出量の多い食品工場では、主力商品の生産量の減少もありましたが、冷凍機、照明の入れ換えや、

ボイラーのインバーター化などにより、前年度から434tを削減し、97.4%の排出量となりました。

2010年4月に移設オープンしたコープ神吉は、省エネモデル店舗として出店。冷蔵・冷凍ケースの棚ごとの照明をなくして全体を照らすオーバーキャノピー照明、冷気が漏れない扉つき冷凍ケース、LED照明、さらに冷蔵機器の運転状況を一元管理する「エコストアシステム」などを導入しました。その結果、コープこうべの同規模の他店舗と比較してエネルギー使用量を35%削減することができました。



事業所別に決められた省エネ実行シート(リスト)



棚ごとの照明をなくす
オーバーキャノピー照明

2011年度はさらに3%削減

2011年度の省エネ運用に向けて職員の意識を高めるため、省エネについてのDVDを作成し、教育を実施しました。また、2010年度に使用した「省エネ実行シート」に、冷蔵・冷凍ケースの管理などの項目を追加した改訂版を作成。2011年度はこれに基づき、エネルギーをさらに前年比2%削減できる運用面の計画をすすめています。また、店舗や工場の空調機、照明器具、冷ケースなどの省エネ型への交換も継続して実施し、CO₂排出量を全体で前年比3%削減できるよう取り組みを進めています。

さらに、夏季の電力不足の対応として、売場の照明や屋外看板照明の消灯などを実施し、節電に努めています。2012年度も2010年度対比で4.2%削減する目標を掲げ、2011年度の取り組みを継続強化する計画です。



窓際照明の昼間消灯



屋外看板照明の消灯

3Rをさらに推進

店舗・宅配でのリサイクル活動

店舗で新たに透明トレイ・卵パックの回収をスタートしました

容器包装は、商品の品質を保持するとともに、組合員のみなさんに必要な情報を提供する役割を担っています。

しかし、資源を使って作られ、使用後はゴミとなるため、コープでは容器包装のリサイクルをすすめています。

店舗では紙パック、飲料缶、発泡トレイ、ペットボトルの回収を実施。また宅配では、紙パック、卵パック、商品

カタログ「めーむ」や商品をお届けするための袋を回収し、リサイクルしています。

また、使用量が比較的多いのが総菜や弁当、野菜などに使用されている透明トレイと卵パック。容器メーカーのお取引様と協力して、これらの回収・リサイクルを店舗（一部を除く）で2011年3月から開始しました。回収ルールに従って組合員のみなさまから集めた回収品は、再びトレイや卵パックに生まれ変わります。



2010年度の回収量

紙パック(店舗・宅配)	392,450kg
飲料缶(店舗)	304,184kg
発泡トレイ(店舗)	296,511kg
ペットボトル(店舗)	524,897kg
卵パック(宅配)	56,476kg
商品カタログ「めーむ」(宅配)	4,411,220kg
商品などをお届けするための袋(宅配)	76,831kg

マイバッグ運動

地域や行政とも連携し、レジ袋を減らすため、運動への参加の働きかけを継続します

1970年代、オイルショックを背景に、くらしの無駄を見直そうと、組合員の提案ではじまった「買い物袋再利用運動」。コープこうべがレジ袋の削減に取り組んで30年以上になります。なにげなく使っているレジ袋も資源を使い、製造と廃棄で発生するCO₂は地球温暖化の原因となっています。買い物という日常の場面でくらしを見直すきっかけづくりをしたいという思いで、1995年からはレジ袋の無料配布を中止し、「お買い物にはマイバッグ」を合い言葉にマイバッグ運動をすすめています。

組合員のご理解とご協力により、2008年度から9割の方にマイバッグをお持ちいただいています。また2011年4月に合併した旧大阪北生協では、レジ袋をお渡するルールのためマイバッグ持参率が4割にとどまることから、マイバッグ運動のアピールを強め、継続して理解と協力を求めていることが課題となっています。

2011年4月13日には、宝塚市および地元の消費者団体と新たにレジ袋削減協定を締結しました。これで協定締結行政は18市2町(内2市は、旧大阪北生協の活動エリアの行政)にのぼります。こうした地域との連携もさらに密にし、取り組みを広げていきます。



レジ袋代金を活用した2010年度の取り組み

●「コープの森・社家郷山」の里山整備と環境学習を推進	7,598千円
●エコファームの視察学習と学習素材・プログラムの開発	4,025千円
●コープミニ御影北の店内照明のLED化	2,630千円
●リサイクル活動の推進や容器包装リサイクル法再商品化委託料金の一部に充当	33,974千円

商品を通じた環境の取り組み

コープスの環境配慮

商品を通じた環境配慮をさらにステップアップします

これまで、食品ではフードプランとその加工品を中心に、また家庭用品では、「省資源やゴミ減量化」「水質汚濁の緩和」「有害化学物質の低減」といったテーマで環境配慮のコープ商品を開発し、普及に取り組んできました。

一方、環境問題を取りまく社会情勢が変化する中、商品も製造・使用・廃棄の過程だけでなく、調達する原料や、その生産場面での生態系や環境への負荷の削減も考慮に入れた商品づくりを積極的にすすめる動きがみられます。

そこで、従来の「環境配慮商品」の枠組みに加え、低炭素社会への転換に貢献できるような、地産地消、食料自給率の向上、食品廃棄の削減といった観点をついた商品開発を、次のようにすすめています。

①飼料米を配合した畜産飼料、米粉を使った加工食品の開発をすすめます。

(例：穂の実りたまご・・・配合飼料の10%を飼料用国産米に)

②地域の産業を守り育てるため、「ひょうご発」のコープスを広げます。

(2011年4月現在57品目)



国産米を配合したパン

穂の実りたまご

コープdeエコ展開催

商品を切り口にしたくらしの中での環境配慮を提案しました

環境配慮というと、「がまん」のイメージが先行しがちですが、少し気をつけて商品を選んだり使ったりすることで環境負荷を減らせることを、楽しく学んでもらうイベント「コープdeエコ展～キッチンからエコライフ」を開催しました。

各地区の主要6店舗でのべ8日間開催し、約3,000人の組合員が来場。商品の環境配慮のポイントを、ゴミや排水といったくらしの中の環境負荷と関連づけながら紹介したほか、調理するとき、食べる時、後かたづけのエコについても紹介しました。クイズや工作、エコ料理の試食なども交え、楽しく学習してもらいました。



「コープdeエコ展～キッチンからエコライフ」の様子

減装ショッピング 2009-2010

NPO法人ごみじゃぱんがすすめる、ごみ減量プロジェクト「減装ショッピング2009-2010」の社会実験にシーア(神戸市東灘区にある店舗)で引き続き協力しました。減装ショッピングとは、ごみじゃぱんが設定した容器包装重量の基準をクリアした商品を「減装商品」として推奨しアピールすることで、消費者の購買行動を促し、社会全体でゴミを減らそうという取り組みです。

これまでの2回の実験で、減装商品への推奨により供給数が伸びることは実証されていますが、今回は、多店舗で実施するための推奨商品選定手続きや消費者への告知方法などの課題抽出を主なねらいに行われました。



組合員の活動と学習

シャ け こうやま コープの森・社家郷山

森の恵みとくらしや食べ物とのつながりを伝える学習をすすめています

コープの森・社家郷山(西宮市)では、マイバッグ運動をとおして集まったレジ袋代金を活用し、「落葉高木林を中心とした多様な生き物を育む豊かな森」をめざし、森の整備を行うとともに、そのことがくらしにどのように関わっているのかについて学習をすすめています。2010年度から新たに組合員親子で参加してもらう5回シリーズのプログラムをスタートしました。

このプログラムには、組合員親子18組44人が登録し、社家郷山と、この山から水や落ち葉たい肥などの恵みをもたらしている近隣の農地をフィールドに、里山がくらしの中に根づいていた頃を疑似体験しながら、生態系の循環、人と自然のつながりについて学びました。

一方、組合員と職員のボランティア養成も引き続き行い、現在75人が登録しています。月に1~2回の定例活動では、担当エリアの整備とその効果検証をしたり、学習イベントの運営補助をお願いしています。

また、職員教育プログラム「地域・組合員活動参加」のメニューのひとつに「社家郷山での森林保全活動」が設けられ、受講者が子どもたちに里山保全の意義を伝える学習素材「たんけんブック」を作成しました。2011年度からは、社家郷山のボランティア活動に参加すると、職員のキャリアアッププログラムのポイントが付与される制度がスタートし、組織をあげて活動をバックアップする体制も整いつつあります。

5回シリーズプログラムの内容

回	日程	内容
1	5月16日	落ち葉たい肥見学、田植え、夏野菜とさつまいも植付け
2	6月12日	森の探検、除伐体験、薪割り、火起こし・野外調理(農地の野菜でカレーライス)
3	7月19日	夏野菜収穫、畑・田んぼの手入れ(草抜き)
4	9月20日	稲刈り、はぜ掛け、脱穀、さつまいも収穫、ペットボトル苗づくり
5	11月28日	薪割り、火起こし・野外調理(収穫米・野菜でごはんのみそ汁)、稲わらでしめ縄づくり



近隣農地での田植え



職員研修プログラムで作成した「たんけんブック」



薪で火起こしをして野外調理



足ふみ脱穀



明るい森にするための除伐を体験

環境共生型農園エコファーム

コープスフードプランの魅力、食べものをつくる大切さを感じる機会を提供しています

エコファームでは、10周年に向けて、地域で組合員活動をすすめるコープ委員のみなさんに、収穫の楽しさや取れたて野菜のおいしさを体験してもらいながら、同時にフードプランや農業について一歩踏み込んで学んでもらえるように視察学習をすすめています。2010年度は、22地域393人のコープ委員がこのプログラムを利用しました。

2011年度は、食、子育て、環境などをテーマに活動をすすめるくらしサークル*の組合員対象のプログラム「まるごと体験エコファーム」も用意し、農業や食の視点を盛り込んだ活動展開につなげてもらいたいと考えています。

なお、これらの取り組みは、マイバッグ運動をとおして集まったレジ袋代金を活用してすすめています。

*地域の中で、自主・自発の活動をすすめる組合員グループ。



「まるごと体験エコファーム」で循環のしくみや農作業のくふうを親子で学習

公益信託コープこうべ環境基金

設立から20周年。よりよい活動をめざし、助成団体どうしが交流しました

「コープこうべ環境基金」は兵庫県内の自然環境の保存と適正な活用をすすめるための実践活動および啓発活動に取り組む団体を助成することを通じ、よりよい自然環境の保全に寄与することを目的としています。マイバッグ運動でいただいたレジ袋代金をはじめ、組合員や取引先からの寄付を積み立てた基金から、これまでの20年間に、のべ441件、総額約5,772万円の助成を行ってきました。

生物多様性保全といった新たな課題もクローズアップされており、これに対応するため、2010年度から「実践活動」への助成に加え、「自然環境保全に向けた実証的調査・研究」を支援する枠組みを新たに設けています。

設立20周年を迎える2011年には、「自然との共生にむけ、いま地域でできること」をテーマに、6月26日にコープこうべ生活文化センターで「つどい」を開催。2010年度に助成を行った団体のパネル展示も行いました。つどいには、助成団体のメンバーを中心に約60名が参加し、相互交流をとおして、よりよい活動のためのヒントを得ていただく機会となりました。



活動パネル展示



活動団体の交流

虹っ子エコ&フードチャレンジ

家や店など身近なところで、「食」と「環境」について親子で楽しく学べる参加型プログラムとして、毎年「エコ&フードチャレンジ」シートを作成し、学校、組合員活動やイベントなどで活用しています。

2010年度は、食べ物選びと調理場面を通じたエコをコンセプトに、春・夏号ではグリーンカーテンと旬、秋・冬号はエコ料理とフードマイレージを取り上げ、合わせて約3,000人が参加しました。



「エコ&フードチャレンジ」シート

食品リサイクルの推進

コープこうべは食品リサイクル法の対象の事業者となっています。店舗から出る野菜や肉の加工くずをエコファームでたい肥化し、また食品工場では、廃棄物処理設備を活用することで、2010年度の食品リサイクル率(再生利用実施率)は67.0%※となりました。

※食品リサイクル法に基づく算定

エコファームでの取り組み

食品リサイクルへの貢献と、農業を担う人材の育成に取り組んでいます

<たい肥作りとフードプラン栽培>

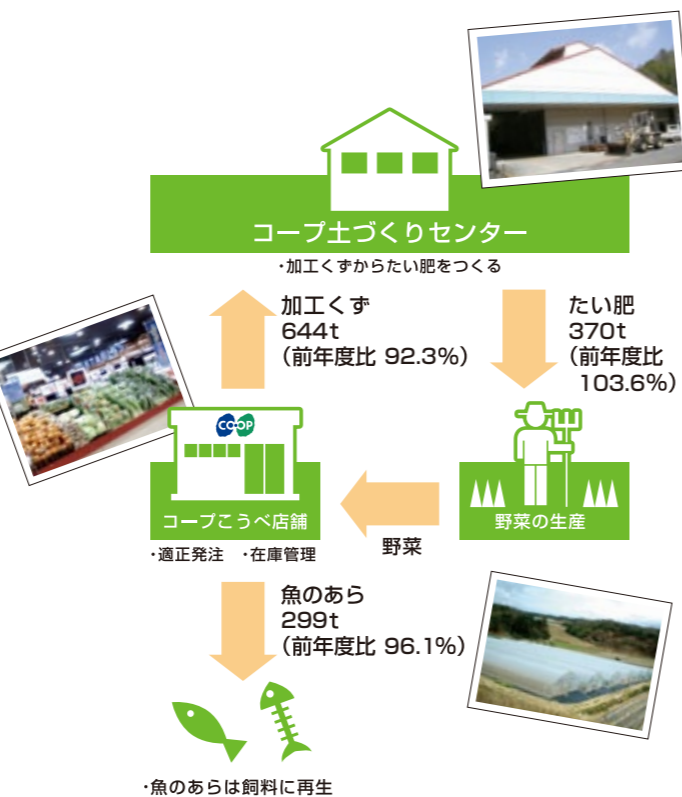
店舗では売れ残り処分品を減らすための適正発注、在庫管理の徹底に努めています。それでも売れ残り品や加工くずの廃棄物は発生してしまいます。

コープこうべでは、この加工くずから堆肥を製造するリサイクルのシステムを、1998年度に立ち上げました。神戸市・三木市の32店舗から発生する野菜と肉の加工くずなどをコープこうべの専用車両で回収し、環境共生型農園エコファーム内にある「コープ土づくりセンター」に持ち込みます。約2ヶ月かけて製造した堆肥はエコファーム内にある(有)みずほ協同農園で使用されます。農園では、このたい肥を使って土づくりを行うことで、農薬の使用回数を一般栽培の半分以下に抑えた野菜生産をすすめ、コープフードブランド商品としてコープの店舗に出荷しています。この取り組みは、食品リサイクルのモデルとして、2010年度には106団体2,658人の視察を受け入れました。

2010年度は専用車両の故障による回収の一時中止により、加工くずなどの回収量は前年比92.3%と減少しました。2011年度は回収店舗の拡大を行い、800t(前年比124.2%)を回収する計画です。

<人材育成>

エコファームで農業を行う農業生産法人の(有)みずほ協同農園では、将来にわたり農業を維持するために、それを支える人づくりにも力を入れています。現在、4人の職員が生産活動のかたわら農業技術の向上に取り組み、将来の農業経営をめざしています。また、エコファームでは、植付けと収穫を体験するプログラム「マイファーム」



や、栽培のアドバイスを受けながら野菜づくりができる「体験農園(貸し農園)」が組合員に人気です。これらは、組合員に農業を理解してもらう機会になっていると同時に、これらのプログラムの受け入れを担う職員が、消費者の思いを受け止められる生産者へと育てていくことが期待されています。

<店舗の廃食油を燃料に>

店舗で総菜を作る際に発生する廃食油の一部は、廃食油からバイオディーゼル燃料(BDF)を精製する事業者にてリサイクルされています。コープ土づくりセンターの加工くず回収車両やエコファームで使用されているトラクターなどの農機具には、このBDFを利用しています。



食品工場での取り組み

やむなく発生する端材や不良品も100%近くリサイクルしています

コープこうべの独自ブランド「コープス」のパン、豆腐、麺類などを製造しているコープこうべ六甲アイランド食品工場では、2003年から食品廃棄物をリサイクルする二つの設備を導入しています。

一つは、大量に発生するおからを飼料にリサイクルできるように乾燥させる設備です。その熱源として、同工場の廃

食油を利用して、もう一つは、食品廃棄物からメタンガスを発酵させる設備です。このメタンガスをボイラーの燃料にし、工場内で使用する電気や蒸気などのエネルギーとして活用しています。工場での2010年度の食品リサイクル率は、99.4%でした。

